

縄文時代における東京湾東沿岸地域の海進海退(1)

武田宗久

I 東京湾の範囲と海底地形

東京湾の海域は房総半島の西端洲崎と三浦半島の剣ヶ崎を結ぶ線以北である。このうち、内湾または狭義の東京湾と呼ばれるのは、房総側富津岬と三浦側観音崎を結ぶ線以北を指し、外湾と呼ばれるのはこの線以南の部分で、この線は浦賀水道といい、『古事記』では「走水」、『日本書紀』では「駆水」、『古語拾遺』では「淡水門」などと呼んでいる。

内湾の海底は北東から南西方向にゆるやかに傾斜し、富津岬の北西約5キロのところに、「中ノ瀬」と呼ぶ浅瀬があって、この西側を「古東京川」(水深50メートル)がS字状に蛇行しつつ「東京海底谷」(水深100メートル)に連している。

外湾は今から約100万年前に、一続きの房総三浦丘陵であったものが、数万年前に陥没してできた海溝部で、これが「東京海底谷」の前身である。

「古東京川」の谷を北にたどると、江戸川・古利根川・元荒川・荒川などの旧河道に続く。その成因は洪積世最後の氷河期(ウルム氷期)の海面低下の時期に刻んだ谷川で、その年代は東京都中野区江古田にある古利根川の川底に堆積した松柏科植物化石層の放射性同位元素¹⁴Cの測定によると、今から1万1千年~2千年前である。

つまり、このころの内湾は完全に陸化した巨大な盆地で、その地形は北東に高く、西南に傾斜していたから、周囲の丘陵を開削しながら流れ出た河川が集まって「古東京川」となり、盆地の西側寄りに南下して、「東京海底谷」の海に注いでいた。

II 縄文時代の海進と東京湾の誕生

ところが、ウルム氷期に終わりを告げ、次の後氷期の時代、言葉を換えていえば、沖積世初頭を迎えると、気温が上昇したために、北半球の氷河や氷雪の大部分が溶けて海中に流れこみ、世界的な海進現象が起こった。これをアトランティック海進ともフランドル海進ともいうが、日本では1909年に東京の有楽町の地下に海成層が発見され、有楽町層と名付けられたのもとで、有楽町海進と呼び、1万6百年前から僅かに海面が上昇し、2回の停滞期を経て、約1万年前から急激な海進に移行した。このため、陸化していた東京湾では、「東京海底谷」にあった海岸線が、「古東京川」の谷に沿って北方に移動し始めた。

このころ、横須賀市若松町にある平板貝塚や同市夏島町にある夏島貝塚が作られた。この状態を夏島貝塚の文化相や魚貝類から窺がってみよう。この貝塚はかつては海上に浮かぶ小島に所在し、「東京海底谷」(久里浜沖)から直線距離で約15キロ北にある。調査報告によると、遺

跡は標高20米の崖端にある斜面貝塚で、7つの文化相に分かれていた。最古の文化相は井草・大丸式に属する土器で、貝層下の土層中に発見された。貝層は下から第1貝層、第1混土貝層、第2貝層、第2混土貝層、第3貝層の順序に堆積し、その上に表土がある。

第1貝層中の土器は夏島式で、マガキとハイガイなどの砂泥性の内海に棲む鹹度の低い貝類が90%を占め、半鹹半淡のヤマトシジミが少量検出された。魚骨はスズキとクロダイが最も多いことから、井草・大丸式の時期には魚撈を営んだ形跡がないけれども、夏島式の時期になって海との接触が始まった。当時の環境はこの付近に淡水の流れこむ河口があって、そこにヤマトシジミが生棲し、泥海底の一部にはマガキやスズキ・クロダイなどが棲む岩礁があったと思われる。この第1貝層の¹⁴Cによる測定年代は9,450±400年であるから、少なく見積っても9,000年前のことである。

この上の第1混土貝層は田戸下層式を含み、貝類は前者よりも鹹度が高く、しかも遠浅な砂利に棲むアサリ・ハマグリが多く、魚骨ではクロダイよりもマダイが多いことから、この時期になると海進が徐々に進行していたことを示している。なお、その上の第2貝層は田戸上層式、第2混土貝層は子母口式、第3貝層は茅山式で、いずれもアサリ・ハマグリを中心とした純鹹貝類からなり、表土からは関山式が出土した（註1）。

また、夏島貝塚の北西1キロ半のところにある野島貝塚は、約7,000年前の野島式期の標準貝塚で、貝類はマガキが多いが、アサリ・カガミガイ・オニアサリ・アカニシなどもかなり含まれる。ただハイガイは極めて少なく発育も悪い。また、エゾタマガイのような寒冷水温のものが見られることから、この時期は水温がやや低くなっていたことが知られる（註2）。

III 奥東京湾の成立と貝塚分布の状況

こうして海水は徐々に、しかも確実に北上を続け、江戸川流域では茨城県古河市、元荒川流域では埼玉県鴻巣市近くまで侵入した。それは約6,000年前の関山・黒浜式期のころであった。こうして奥東京湾が形成され、満潮時にはこれよりかなり奥地にまで潮流がさしかこんでいたらしく、江戸川流域では東京都の埋立以前の海岸線から約70キロ内陸に入り、栃木・群馬・茨城三県の境に接する赤麻沼（遊水池）沿岸にもいくつかの貝塚が作られた。

中でも最奥にあるのは栃木県下都賀郡藤岡町の篠山貝塚である。標高20メートル、沼表面との比高は5メートルで、貝層中に前期中ごろの関山式土器を含み、貝類の95%以上はヤマトシジミとマシジミであるが、マガキ・イタボガキ・ハイガイ・ハマグリ・シオフキなども混入する（註3）。この貝塚から南へ3キロ以内には早期末葉の茅山式期の北貝塚・一峯神社境内貝塚、前期中ごろの黒浜式期の野渡貝塚があり、赤麻沼の西方には関山式期の板倉貝塚があり、いずれもヤマトシジミとマシジミを中心とする貝塚である。

江戸川流域をこれより10キロ下った右岸の山王山貝塚（茨城県猿島五霞村）・浮戸貝塚・餘

療所前貝塚やさらに5キロだった同村土塔貝塚（江川貝塚）は、いずれもハマグリ・アサリ・シオフキを主とする関山・黒浜式期の純縫貝塚、さらにドット埼玉県北葛飾郡杉戸町の木津内貝塚・日沼貝塚、左岸の千葉県東葛飾郡関宿町の元町貝塚（靈園寺内貝塚）なども同時期か前期中ごろの純縫貝塚であるが、五箇村の小手指貝塚は中期前半の阿玉台式期の貝塚で、ヤマトシジミが多く、マガキがこれに次ぎ、ハマグリ・サルボウ・シオフキ・アカニシなどのほかに、淡水産のカワニナ・タニシなどもある。また同村冬木貝塚・関宿町の篠台貝塚は後期後半の加曾利B・安行I式期の主淡貝塚で、いずれも標高10米前後の微高地にあることが注目される。

このあたりから、埼玉県栗橋・茨城県古河・埼玉県加須・鷲宮・久喜・幸手を結ぶ一帯の地域は関東造盆地運動の沈降の中心部であるから、海進のピークを過ぎても容易に海退に向かわらず、各地にラグーン的景観が見られたことを思わせる。

大山史前学研究所（註4）・甲野勇（註5）・江坂輝弥（註6）らの研究によれば、こうした状況は古利根川・元荒川・荒川の3河川の流域に分布する多数の貝塚の文化相・魚貝類の種別によってほぼ同様であることが知られるが、近代人宮市寿能泥炭遺跡の自然科学的調査の結果によれば、繩文海進の最高海面は標高約3メートルで、諸磯a式期に相当し、前期末葉の十三背堤式期には、すでに海退していたと報告されている（註7）。

貝塚対平の「下木吉面の高度分布図」によれば、この大宮・川越・上尾・蓮田・岩槻を結ぶ線には関東造盆地運動の沈降中心地区とは別の沈降地域があったのであろう。また東京都北区中里にある低地遺跡は荒川の旧下流隅田川右岸の本郷台と呼ばれる台地直下にあって、その最下層の波食台は最高海平面の時期を示し、標高3.50～4.63メートルであり、諸磯a式期とも五領ヶ台式期とも想定された（註8）。いずれにしても、このあたりは関東造盆地運動の外縁部に相当するところで、前期中ごろ乃至中期初頭のいずれかの時期には、浅海砂泥性の波うちぎわであった。

IV 現東京湾西岸地域の貝塚分布

東京都と川崎市の境をなす多摩川の上限貝塚では右岸では現海岸線から14キロの川崎市高津町にある久本貝塚（諸磯b式期）で、ヤマトシジミを主とする主淡貝塚、左岸では約15.5キロの東京都世田谷区玉川瀬田町の瀬田貝塚（諸磯b式期）で、ハマグリ・マガキを主とし、ヤマトシジミもある主縫貝塚、これより約1キロ下がった同区玉川野毛町の六所東貝塚（黒浜・諸磯b式期）は、ヤマトシジミとハマグリが最も多い淡縫貝塚で、標高35メートル、沖積低地との比高は15メートルであり、これより更に3キロ下がった大田区田園調布の上沼部貝塚は後期前半の堀之内・加曾利B式期の純縫貝塚に近い主縫貝塚となるので、前期中ごろの海汀線は六所東貝塚と上沼部貝塚の中間位の現標高10メートル前後の谷底と思われる。

次に横浜市に注ぐ鶴見川の上限貝塚は現海岸線から約12キロの港北区折本貝塚（黒浜・諸磯

b式期)で、ハイガイ・マガキ・サルボオ・ハマグリなどの主貝貝塚、右岸の上限貝塚は神奈川区上菅田貝塚(黒浜・諸磯b式期)で、貝類は前者と同じ主貝貝塚、また鶴見川の支流早瀬川の上限貝塚は、約15キロの港北区境田貝塚(諸磯b式期)で、ハイガイ・マガキ・ハマグリ・アサリ・カガミガイなどの純貝貝塚、それより少し下ったところにある同区西ノ谷貝塚(黒浜式期)・南堀貝塚(黒浜・諸磯b式期)・茅ヶ崎貝塚(黒浜・諸磯b式期)などは、いずれも純貝または主貝貝塚である。

そして、鶴見川と早瀬川との合流点を中心とした鶴見川入江とも云うべきやや広大な沖積低地周辺の台地には、峯谷貝塚・南郷島貝塚・師岡貝塚・駒岡貝塚・梶山貝塚・上台貝塚・表谷東貝塚・表谷西貝塚・菊名貝塚など、いずれも黒浜・諸磯式期の貝塚が半径2.5キロ以内に群集し(註9)、しかも純貝または主貝の貝類相を示し、中・後期の貝塚はこれより下流の周辺台地の斜面に散在する。

横浜市金沢区称名寺貝塚は標高5メートル、現海岸より直線距離で300メートルの砂丘上にあり、A地点の上部貝層は称名寺式、下部貝層は加曾利E式、その下の砂層に五領ヶ台式と勝板式土器の小破片が検出され、B地点の貝層中下部から称名寺式、上部から掘之内I式が出土したという(註10)。

このような貝塚分布の状況から、翌東京湾西岸地域の海進は、前期中ごろに最高海面となり、各河谷の奥部に多数の貝塚集落が作られたが、以後急足に海退して、中期初頭のころには、早くも現海岸線近くの沖積低地(標高5メートル未満)にまで海退していたことを思わせる。

註1. 杉原莊介・芹沢長介「神奈川県夏島における縄文文化初頭の貝塚」(『明治大学文学部研究報告考古学』第2冊)昭和32年。

註2. 赤星直忠「神奈川県野島貝塚」(『考古学集刊』No.1)昭和23年。

註3. 岡本勇・坂田光「栃木県藤岡貝塚の調査」(『考古学集刊』No.4)昭和37年。

註4. 大山史前学研究所『縄文式石器時代の編年学的研究像報』昭和8年。

註5. 甲野勇『埼玉県柏崎村真福寺貝塚調査報告』昭和3年。

註6. 江坂輝弘「海岸線の進退からみた日本の新石器時代」(『縄文土器文化研究序説』所収)昭和57年。

註7. 堀口万吉「寿能泥炭遺跡の自然環境」(埼玉県教育委員会『寿能泥炭遺跡発掘調査報告書』)昭和59年。

註8. 東北新幹線中里遺跡調査会『中里遺跡1』p.123・282、昭和62年。

註9. 神沢勇一「師岡遺跡」(神奈川県立博物館『神奈川県立博物館発掘調査報告書』14号)昭和57年。

註10. 吉田格「横浜市称名寺貝塚発掘調査報告」(武藏野文化協会『東京都武藏野郷土館調査報告書』第1冊)昭和35年。

V 現東京湾東岸地域の貝塚分布

ここにいう東京湾東岸地域とは、千葉県市川市から君津郡富津市に至る延長約80キロ余の東京湾（内湾）の沿岸で、千葉・市原両市を中心とし、東京湾に向かって扇形に南北に展開する浅海砂泥性の海岸に望む周辺一帯の地域を指す。そこには北西に低く南東に高い標高30～300米の両総合地に水源を発し、樹枝状の谷を開削して下流に沖積平野を開きつつ、東京湾に注ぐ中小の河川がある。その主なものは、北方から真間川、海老川、花見川、都川、村田川、養老川、小櫃川、小糸川である。

縄文時代の貝塚乃至貝ブロックを包含する遺跡は、主としてこれらの河川の沿岸台地の縁辺に分布するが、希に海底埋没貝塚もあり、筆者の知り得た範囲では合計299ヶ所である。但しこの中には江戸川流域に面する松戸七戸割I貝塚（26）・陣ヶ前貝塚・柿の木台貝塚（28）と、印旛沼に注ぐ神崎川水系の海老ヶ作貝塚（126）、同じく印旛沼に注ぐ鹿島川水系の中三角貝塚（240）・中野僧御堂遺跡（234）・八反目台貝塚（235）・宮ノ台貝塚（236）・野呂山田貝塚（182）・荒立貝塚（239）を除くと、総数289ヶ所となる。これらの遺跡を、下総台地に面する北半部（市川市～千葉市）と、上総台地に面する南半部（市原市～富津市）に2分し、各時期の貝塚乃至貝ブロック包含遺跡の分布を見ると、次のようになる。

北半部

(1) 真間川沿岸

松戸市南部に源を発し、市川市を貫流する真間川本流（国分川）は延長約14キロ、真間川の支流大柏川は本流との分岐点まで延長約6キロで、この分岐点の北方には北から南にV字状に張り出す宮久保～曾谷丘陵が望まれ、そこには早期から後期にわたって魚撈生活を営んだ多数の貝塚集落が密集する。

国分川の上限貝塚は谷奥に近い陣屋前II貝塚（1）・子和清水貝塚（2）・新山貝塚（3）・鳥井戸貝塚（4）などである。このうち、陣屋前II貝塚（陣屋前B貝塚）は阿玉台・加曾利E I式期の小貝塚、子和清水貝塚（日暮柏葉台貝塚）は阿玉台・勝坂・中峠・加曾利E I・加曾利E II式期の小貝塚群からなる点在馬蹄形貝塚で、標高27～28メートル、谷との比高は8.2メートル、貝類はハマグリ・アサリ・イボキサゴ・サルボオ・オキアサリ・ウミニナを主とし、魚骨はクロダイ・ヘダイ・スズキ・シタビラメなどからなる純鰐貝塚。新山貝塚は阿玉台・勝坂・加曾利E I・加曾利E II式期の小貝塚である。鳥井戸貝塚については、松戸市教育委員会『松戸の遺跡』に地点貝塚として、花輪台・田戸上脇・茅山・関山・黒浜・諸磯b・浮島・興津・阿玉台・加曾利B・安行III b式期の上器を出土し、貝類はアサリ・サルボウ・バイ・キサゴとあるが、これらはすべて表面採集によるものであるから、貝層中にどの時期の土器が含まれているか明確でない。

さて、国分川の左岸では、子和清水貝塚より1.5~20キロ下がると、東南方に分かれた支谷の左岸に河原塚Ⅱ貝塚（5）・河原塚貝塚（6）・西金楠台貝塚（7）・坂之台貝塚（8）があり、右岸に中峰貝塚（13）・内野貝塚（12）・紙敷貝塚（11）・新堀込貝塚（10）・栗芝台貝塚（9）・天殿台貝塚（30）などがある。右のうち、発掘によって判明した貝層中の土器は、河原塚Ⅱ貝塚（堀之内I式）・河原塚貝塚（堀之内I・同II式・少量の加曾利B式）・西金楠台貝塚（加曾利E末葉・称名寺式）・中峰貝塚（阿玉台・勝坂・中峰・加曾利E I・II・III式）・紙敷貝塚（阿玉台・加曾利E式）であって、他の貝塚出土の土器はすべて採集によるものである。

国分川左岸を更に下がった秋山向山貝塚（19）も阿玉台・勝坂・加曾利E式期の点在ブロック貝塚であるが、これより東南約500米のところにある牧之内貝塚（24）は、小貝塚郡からなる点在貝塚で、茅山式1片・黒浜・浮島・諸磯b・阿玉台・加曾利E・堀之内式期の土器が採集されているから（註1）、未発掘であるが、このあたりが前期貝塚の上限ではないかと思われ、本貝塚からさらに南へ約1キロ余下がった曾谷貝塚（43）を皮切りに、宮久保・曾谷丘陵の縁辺には、早期乃至早~前期、あるいは前期の土器を貝層に包含する遺跡が多い。いまその主なものを挙げると、イゴ塚（45）・曾谷（44）・根古屋（50）・高徳穂（51）・三中校庭（52）・宮久保A（53）・宮久保所願寺（54）・山ノ後（55）・庚塚（55）などの貝塚である。

右のうち、イゴ塚貝塚（黒浜・諸磯・堀之内・加曾利B）は標高8米、根古屋貝塚（花輪台・茅山・諸磯・五領ヶ台・下小野・堀之内・安行I・同II）は標高7米の沖積段丘の砂丘上にある。また本丘陵最大の馬蹄形貝塚として知られる曾谷貝塚は、早期中ごろの田戸下層式期から晩期初頭の安行Ia式期までの遺跡であるが、発掘によって知られる範囲では、「黒浜期と加曾利E III式期から安行I式期までの貝層が確認された」（註2）という。

次に国分川右岸では谷奥の陣屋前Ⅱ貝塚（1）から約2キロ半ほど下がったところにある西北方に向う支谷に面して下水貝塚（14）と通源寺貝塚（15）がある。前者は中~後期の小貝塚であるが、後者は点在馬蹄形の貝塚で、前期の黒浜式と中~後期の遺跡として早くから知られるが、下総史料館の記述によれば、黒浜式期に伴う貝層の存在は殆んど無いものと思われる（註3）。この貝塚から南西へ約2キロ半下がった堀之内貝塚（34）までの11カ所の貝塚の中で、白樺貝塚（17）以外の遺跡は中期または中~後期である。白樺貝塚は『松戸の遺跡』（註4）に興津・勝坂・加曾利E・堀之内式期とあるが、前期末葉の興津式に貝層を伴う確率は少ない。

現時点では国分川右岸の前期の貝塚で、最奥の遺跡は、堀之内貝塚南側の谷を距てた台地縁辺にある北台貝塚（38）であろう。標高24メートル、谷比高14メートル、黒浜・諸磯a・b・c・浮島I・II・III・興津式期の点在馬蹄形貝塚であり、近くにある中台貝塚（37）は黒浜・諸磯a式期の小貝塚である。また前期の貝塚で最下流域にあるのは、標高5~7メートルの砂丘上にある久保上貝塚（40）で、黒浜・諸磯a・浮島III・興津式期、この近傍にある諸貝塚下遺跡（42）は標高10メートル、黒浜式期の堅穴住居址を発掘、根郷留見貝塚（41）は標高10メートル、関山・黒浜・諸磯a・浮島II・

五領ヶ台式期である。

真間川の支流大柏川沿岸を見ると、谷奥にある中沢貝塚（89）は堀之内・加曾利B・安行I式期に貝層を伴う純縦に近い主縦貝塚で、標高30米、水田面との比高11米の馬蹄形貝塚、これより下がった右岸の木戸脇（90）・一本松（91）・栗子台（92）・根郷No.1（96）・根郷No.3（97）・鳴神山B（56）・鳴神山A（57）は中期または中～後期で、前期の貝塚は中沢貝塚から約3キロ余下がった殿台貝塚（59）で、黒浜・諸磯a・b・浮島I・II式期である。

また左岸では、中沢貝塚から約1～2キロ下がった範囲に、外和戸貝塚（93）など7つの小貝塚群があり、いずれも中期である。前期の貝塚で最奥にあるのは、この貝塚群よりさらに下がった位置にある株木A貝塚（67）で、標高約9米を測る低地にあり、黒浜・諸磯a・浮島I式期である。

これより南に下がると、真間川の旧湾口部に近い台地上に占地する美濃輪台A貝塚（88）に至る間、約3キロの間に26余りの大貝塚群がある。その主なものを挙げると、杉ノ台貝塚（72）は貝層中に早期の茅山式、このほか鶴ヶ島台式、前期の花植下層・諸磯b・浮島I・III・興津式、中期の下小野、後期の称名寺・堀之内I式。法伝貝塚（82）は早期の茅山式、前期の黒浜・諸磯c・浮島II・興津式・中期の下小野・五領ヶ台・阿玉台・勝坂・中峠・加曾利E I・II・III式。法連山貝塚（106）は貝層中に前期の黒浜・諸磯a・c・浮島I・II・III・興津・十三苦堤式、このほか貝層外に中期の下小野・阿玉台・加曾利E II・III式、後期の称名寺・加曾利B式期の土器も出土する。下郷後貝塚（105）は早期の茅山式、前期の黒浜・諸磯式・中期の加曾利E I・II・III・IV式、後期の安行I・II式。三角貝塚（83）は早期の茅山式、前期の黒浜式期。東新山貝塚（85）は貝層中に前期の黒浜式、このほか前期の諸磯a・浮島III・興津式、中期の下小野・阿玉台・加曾利E III式。美濃輪台A貝塚（88）はハイガイ・マガキなどの貝ブロックを伴う炉穴に、早期の茅山上層式、このほか早期の鶴ヶ島台式、前期の浮島III式、中期の下小野・五領ヶ台式も検出される。以上のほか、前期の貝塚と予測されるものに、新川上A（69）・新田前（70）・池端（71）・七畝畠（84）・花ヶ谷台（87）などがある。

次に中・後期では、株木B（68）・卯塔前A（73）・奉免安楽寺（75）・奉免南（76）・姥山西（77）・姥山（78）・内荒久（79）・今島田（80）・今島田東（81）・藤原鏡音堂（103）・中法伝（104）・貝柄塚（86）・古作（111）などの諸貝塚がある。

この中で、姥山貝塚と古作貝塚は馬蹄形貝塚として早くから知られ、前者はこれまでの発掘調査の段階で知り得た貝層形成の時期は、中期の阿玉台・中峠・加曾利E I・II・III式、後期の堀之内I・II・加曾利B I・II式であるという（註5）。古作貝塚は昭和3年中山競馬場設置によって破壊されたために、全貌を知ることができないが、その際に発見された堀之内式の貝入り完形蓋付土器2個は貴重な文化財である。船橋市教育委員会が昭和56～57年、同所の高電圧線埋設工事予定地部分と旧厩舎の空地を調査した結果によると、貝層形成の時期は、後

期初頭の称名寺式期から堀之内Ⅰ式期であるという（註6）。しかし、発掘区から出土した土器は加曾利EⅣ・称名寺I・堀之内I・II・加曾利B・安行I・II・IIIa式であること、古作貝塚の一部と思われる可能性が強い貝柄貝塚（111）出土の土器が加曾利EⅢ・堀之内I・加曾利B・安行I式であることなどを勘案すると（註7）、木貝塚は中期の後半から後期にわたる漁撈集落であろう。

また、昭和56年に奉免安楽寺貝塚の一部を発掘した報告によると（註8）、本貝塚の立地は標高8～9米、現水田面との比高は3～4米の低段丘上にあり、貝層下土層からは早期の茅山式、前期の黒浜式、貝層からは加曾利B I・II式が検出されたという。なおこの発掘以前に表探された諸記録では、勝坂・阿玉台・加曾利E・堀之内式期のものもある（註9）。

＜鳥井戸貝塚（4）の問題点＞

この貝塚が真間川本流（国分川）の谷奥にある小貝塚で、早・前・中・後・晚期の土器を出土し、自然遺物にアサリ・サルボウ・バイ・キサゴ（イボキサゴ）があることは、すでに述べたところであるが、これらの土器のうち、いずれの時期に貝層が伴うかという問題は、発掘調査による以外に解明する方法はない。しかし、すでに宅造によって消滅し去った現時点では、本貝塚の立地と同様の環境にある陣屋前Ⅱ貝塚（1）・子和清水貝塚（2）・新山貝塚（3）と、これらの貝塚の近隣にある貝層を伴わない遺跡の内容を検討することによって、ある程度の推測は可能であろう。

さて、これらの貝塚のうち、陣屋前Ⅱ・新山の両貝塚も調査前に宅造によって消滅しているが、表探による限りでは中期の遺跡である。子和清水貝塚は、昭和37年、43年、47～50年の3度にわたりて発掘調査が行なわれ、その結果堅穴住居址278基、小堅穴1000余基、埋葬人骨3体などを検出した他、多量の遺物を出土した点在馬蹄形の貝プロック遺跡であって、中期の大集落であることが確認された。『松戸の遺跡』には本貝塚出土の貝として鱗水系31種類が載っているが、その中にアサリ・サルボウ・バイ・キサゴがあり、同書の鳥井戸貝塚のところにも、同じ貝類が書かれているが、早～前期の貝塚に必ず検出されるハイガイやマガキは見えず、内湾の中～後期に多産するキサゴ（イボキサゴ）がある。このことは鳥井戸貝塚にはその2種類の貝はあっても極めて少ないと示すとともに、本貝塚が中期以後のものであることを暗示する。

次に真間川本流の谷奥にある前記4貝塚の周辺約1.5キロ以内の遺物包含地出土の土器型式を見ると、鳥井戸貝塚出土の花輪台・田戸上層式期のものはないが、早期末葉から前期のものは初富飛地I・矢深作・生松などの遺跡にあって、且つこの3遺跡は鳥井戸貝塚が占地する同一の支谷の縁辺台地にある。従って鳥井戸貝塚から早～前期の土器が出土するのは決して不思議ではないけれども、この時期に貝塚を作ったとは考えられない。

国分川谷奥周辺の縄文時代遺跡

遺跡名	所在地	種別	型式	資料
岸屋前 II	松戸市金ヶ作岸 屋前	地点貝塚	阿玉台・加曾利 E I	松戸市教育委員会『松戸の遺跡』昭和51年
子和清水 (口暮柏葉台)	日暮子和清水・ 小山台・金ヶ作 新山	点在馬蹄形貝ブ ロック貝塚	阿玉台・勝坂・ 中峠・加曾利 E I・II・III	明治大学考古学研究部『Microlith 22号』 明治43年、高橋良治・翠田光・小片保「千葉県子和清水貝塚調査報告」(考古学雑誌4 9-2) 昭和58年、松戸市教育委員会『子 和清水貝塚構造図版録』昭和51年
新 山	松戸市金ヶ作新 山・日暮小山台	地点貝塚	阿玉台・勝坂・ 加曾利 E I・II	松戸市教育委員会『松戸の遺跡』昭和51年
鳥 井 戸	松戸市日暮鳥井 戸	地点貝塚	花輪台・田戸上脇・ 茅山・闘山・黒浜・ 諸磯 b・浮島・興 津・阿玉台・加曾 利B・安行 III b	同上
初富飛地 II	松戸市初富飛地	包含地	阿玉台・加曾利 E I	千葉県文化財センター『千葉県埋蔵文化財 分布地図(II)』昭和60年
初富飛地 I	同上	同上	茅山・浮島・五領 ヶ台・阿玉台・加 曾利 IV・称名寺	同上
五香六実 元山 I	松戸市五香六実 元山	同上	阿玉台・加曾利 E III・IV・称名 寺	同上
北 山	松戸市串崎新田 北山	同上	加曾利 E II・堆 之内 I	同上
矢 深 作	松戸市中新田矢 深作	同上	黒浜・浮島・諸 磯・五領ヶ台・ 阿玉台・称名寺・ 加曾利 B	同上
生 松	松戸市田中新田 生松	同上	花積下脇・闘山・ 黒浜・浮島・堀 之内 I	同上
陣屋前 I	松戸市金ヶ作陣 屋前	同上	阿玉台	松戸市教育委員会『松戸の遺跡』昭和51年

- 註1. 江森正義「牧之内遺跡」(下総史料館『かみしき』6)昭和46年。
- 註2. 堀越正行「千葉県市川市曾谷貝塚の発掘調査」(『日本考古学協会第45回総会・研究発表要旨』)54年。
- 註3. 湯浅喜代治「通源寺遺跡」(下総史料館『かみしき』10)昭和48年。
- 註4. 松戸市教育委員会『松戸の遺跡』昭和51年。
- 註5. 市川市史編纂委員会『市川市史』第1巻 昭和46年。
- 註6. 船橋市遺跡調査会・調査団『古作貝塚』昭和57年。
- 註7. 『市川市史』第1巻。
- 註8. 市川市教育委員会『昭和56年度埋蔵文化財発掘調査報告』昭和57年。
- 註9. 堀越正行「奉免安楽寺貝塚の提起する問題」(『史館』14号)昭和58年。

なお、本稿のつづきは『貝塚博物館紀要』第16号(昭和63年度出版)以降の号に掲載の予定です。

貝塚博物館開館20周年記念特別講座講演集(1988年)より再録



加曽利北貝塚A トレンチ 昭和42年度

松戸市

番	古戸 村別	地図分布 地図	貢租・且ブロックを含む 地 名	所 在 地	其 種 形 成 時 期				
					早 期	前 期	中 期	后 期	晚 期
1	1	22-74	御園前日 (御園前日)	金作障泥前				■	
2	2	22-77	子和清水 (口巻・日春泊塙台)	日秀子和清水・小山台・金作新山			■		
3	3	22-78	新山	金作新山・日暮小山台			■		
4	4	22-83	馬井戸						
5	5		河原塙Ⅱ	紙敷西金塙台			■		
6	6	22-113	河原塙	紙敷西金塙台		■		■	
7	7	22-114	西金塙台 (金塙台)	紙敷西金塙台			■		
8	8	22-115	坂之台 (大坂台・大坂台北)	紙敷坂之台・坂谷塙台・西金塙台・向田込		■	■		
9	9	22-140	坂之台 (天戸)	紙敷坂之台・大山			■		
10	10	22-139	新掘込	紙敷新掘込・電兵新山		■			
11	11	22-137	新敷 (紙敷花輪・紙敷東・向)	紙敷花輪・向・外花輪・名木					
12	12	22-135	内野 (中嶺東・中嶺B・高澤中台)	紙敷川中・高澤新田内野			■		
13	13	22-133	中峰 (中峰八)	紙敷中峰			■		
14	14	22-100	下水 (下州池・松戸新田下塙台)	和名・谷下水・新浜・吉兵衛園舎			■		
15	15	22-101	通顯寺 (和名・谷)	和名・谷通顯寺・二反削			■		
16	16	22-99	和名・谷塙台 (上谷塙)	和名・谷塙台・御防堤			■		
17	17	22-153	白樺	大橋白樺			■		
18	18	22-152	内山	大橋内山			■		
19	19	22-142	秋山向山	秋山向山・宿			■		
20	20	22-158	南内 (南谷津)	大橋南台			■		
21	21	22-157	南台塙 (南谷津B)	大橋南台塙			■		
22	22	22-151	大塙塙	大橋大塙塙・北人塙			■		
23	23	22-159	大橋向山 (大塙・大作)	大橋向山・南塙			■		
24	24	22-145	牧之内 (神御)	秋山牧之内・神宿・堀込			■		
25	25	22-147	塙込 (秋山・道崎)	秋山塙込			■		
26	26	22-92	松戸七塙割Ⅰ (三丁目)	松戸七塙割			■		
27	27	22-96	解ノ前 (貝台)	松戸貝台			■		
28	28	22-95	解ノ木台	松戸解ノ木台			■		
29	29	30-150	木戸前	高澤新田木戸前			■		

市販形成時期の太線部分は、其蔵形成の生なる時期を表す。

土 台 の 表 式	形 様	備 考	主 要 文 獻
阿玉台・加賀利E I	地 点	消 滅	松戸市教育委員会『松戸の遺跡』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
阿玉台・藤坂・中村・加賀利E I・II・III	点在馬蹄形	光 滅・消 滅	高橋弘一・小林洋子「千葉県下『古墳時代』『奈良時代』『平安時代』『鎌倉時代』『室町時代』『戦国時代』『江戸時代』『明治時代』『大正時代』『昭和時代』」昭和47・48・49・50・51年 松戸市教育委員会『松戸の遺跡』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
阿玉台・藤坂・加賀利E I・II	地 点	完 剥・消 滅	松戸市教育委員会『松戸の遺跡』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
荷輪台・御門上層・茅山・圓山・黒瀬・須崎山・河原山・明治・阿玉台・加門利B・安行B・豊	地 点	完 剥・消 滅	野村大輔古跡研究会『松戸の遺跡』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
中前期・潮之内 I	点在員プロック	發 露・消 滅	日本鉄道建設公團東京支社『河原塚I遺跡』昭和52年
茅山・加賀利E III・称名寺・潮之内 I・II・加賀利B I	馬 蹄 形	発 露・一部消滅	大庭智雄・船戸河内源吉著『松戸の遺跡』(船戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
加賀利E II・IV・称名寺・潮之内 I・加賀利B	地 点	完 剥・一部消滅	田嶋芳古資料刊行会『松戸市金糞丘遺跡』昭和49年
茅山・加賀利E II・称名寺・潮之内 I・加賀利B	地 点	在 一 部 消 滅	田嶋芳古資料刊行会『MICROSTRAT』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和55年
茅山・黒瀬・阿玉台・加賀利E III・称名寺・潮之内	地 点	在 一 部 消 滅	松戸市教育委員会『松戸の遺跡』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
加賀利E I・II・IV・称名寺	地 点	在 一 部 消 滅	同上
五葉・角・阿玉台・藤坂・加賀利E I・II・藤坂・中村・加賀利E I・II・藤坂・中村・加賀利E I・II	馬 蹄 形	完 剥・一部消滅	「千葉」昭和44年、千葉県立千葉高等学校考古学研究会『千葉県東部古墳遺跡調査報告書』昭和44年 佐藤伸介・川上聡・庄藏一「千葉県松戸市古墳群」昭和43年
加賀利E III・II・IV・潮之内	地 点	一 部 消 滅	松戸市教育委員会『松戸の遺跡』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
前第・阿玉台・藤坂・中村・加賀利E I・II	点在馬蹄形	發 露・一部消滅	下條芳古資料研究会『小幡遺跡発掘調査報告』(下條考古学6号) 昭和61年
中期・加賀利E II・IV・称名寺・潮之内 I・II・加賀利B I・II・黄谷・安行 I・II	地 点	一 部 消 滅	松戸市教育委員会『松戸の遺跡』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
須崎・阿玉台・藤坂・中村・加賀利E I・II・称名寺・潮之内 I・加賀利B	点在馬蹄形	一部 消 滅	福島恭二「須崎寺遺跡」(下條史料館『みみしき』10) 昭和48年
加賀利E I・II・III・IV・潮之内	地 点	一 部 消 滅	松戸市教育委員会『松戸の遺跡』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
鷺津・藤坂・加賀利E III・潮之内	小	消 滅	同上
阿玉台・藤坂・加賀利E I・II・III・IV・称名寺	地 点	完 剥・一部消滅	松戸市教育委員会『松戸市大堀大塚越内山・遺跡の発掘調査報告』(松戸市文化財調査報告3集) 昭和64年
阿玉台・藤坂・加賀利E I・II・III・IV・潮之内 I	点在員プロック	完 剥・一部消滅	藤原信代著『松戸遺跡』(下條史料館『みみしき』7) 昭和47年 松戸市教育委員会『松戸の遺跡』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
称名寺・潮之内	地 点	一部 残 存	松戸市教育委員会『松戸の遺跡』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
藤坂・御門E IV・称名寺・潮之内	地 点	一 部 消 滅	松戸市教育委員会『松戸市大堀大塚越・内山道路の発掘調査報告』(松戸市文化財調査報告3集) 昭和64年
加賀利E IV・称名寺・潮之内 I	地 点	一 部 消 滅	「千葉」昭和44年、千葉県立千葉高等学校考古学研究会『千葉の遺跡』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
藤坂・加賀利E II・III・称名寺・潮之内 I・II・加賀利B	地 点	一 部 消 滅	江藤正義「松戸・大塚越」(下條史料館『みみしき』6) 昭和48年 松戸市教育委員会『松戸の遺跡』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
茅山・黒瀬・浮島・諸瀬・阿玉台・加賀利E I・II・潮之内 I・II	地 点	一部 残 埋	松戸市教育委員会『松戸の遺跡』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
加賀利E I・後期	地 点	消 滅	松戸市教育委員会『松戸の遺跡』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
潮之内	地 点	完 剥・消 滅	同上
加賀利E II・称名寺・潮之内 I・II・加賀利B I・安行 I・II・潮之内	地 点	消 滅	松戸市教育委員会『松戸市文化財調査報告』第1集、昭和58年
潮之内 I・II	地 点	一部 残 存	松戸市教育委員会『松戸の遺跡』(松戸市文化財調査報告6集) 昭和61年
加賀利E III・潮之内	地 点	在 一 部 残 存	同上

市川市

番号	市町村別 地図番号	貯留・貯蔵庫分布 道	所 在 地	貯 留 形 成 時 期				
				平 常	病 暇	中 国	後 墓	晚 暮
30	1	22- 15	天駿	大野町 2番地 2他			■	
31	2	22- 8	大綱向山	北国分町2849番地他				
32	3	22- 11	イサナガ神社境内	北国分町3303番地他				
33	4	22- 12	森原原	北国分町2639番地 1他		■		
34	5	22- 13	森之内	北国分町2899番地他				
35	6	22- 38	森之内	同上 6丁目2387番地 1他			■	
36	松戸市 39		一の谷西	高瀬新田156番地				
37	8		中台	中国分 3丁目		■		
38	9	22- 46	北台 (東綱兵場・上向)	中国分 5丁目566番地 1		■		
39	10	30- 50	綱分平川	同上 5丁目1738番地 1他			■	
40	11	30- 52	久保上	真綱 5丁目69番地 1他		■		
41	12	30- 57	根岸皆見	須和田 2丁目381番地				
42	13	30- 55	諸	須和田 2丁目422番地 2他				
43	14	30- 58	菅谷貝殻塚 (東山王)	菅谷 4丁目813番地 1他		■	■	
44	15	30- 60	菅谷	菅谷 2丁目451番地他				
45	16	30- 59	イゴ原	菅谷 8丁目825番地他		■		
46	17	30- 61	馬坂	菅谷 3丁目1019番地 2他				
47	18	30- 62	安国寺境内	菅谷 1丁目287番地他				
48	19	30- 64	各平田	菅谷 3丁目1081番地 1他				
49	20	30- 63	向台	菅谷 1丁目 1 2番地 2他			■	
50	21	30- 66	新吉原	菅谷 3丁目1063番地 5他				
51	22	30- 68	高速郷	菅谷 1丁目147番地 1他				
52	23	30- 67	二中校庭	菅谷 5丁目 4番地他				
53	24	30- 69	宮久保人 (宮久保)	宮久保 2丁目29番地22他				
54	25	30- 71	宮久保所跡寺 (宮久保坂上・宮久保東)	宮久保 4丁目374番地 1他				
55	26	30- 73	山ノ後	宮久保 4丁目683番地他				
56	27	22- 23	鳥神山B	大野町 198番地 5他		■		
57	28	22- 24	鳥神山A	大野町 4丁目2481番地 1他				
58	29	22- 26	岡下	大野町 4丁目3229番地 2他			■	
59	30	22- 37	綱台	大野町 4丁目2849番地 1他		■		

土器の形式	規模	備考	主要文献
丸筒・阿玉台・加賀利B・称名寺・縄之内	点 在	一部 消滅	千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』昭和50年 千葉県文化財セミナー『遺跡分布地図』I、昭和60年
阿玉台・称名寺・縄之内I・加賀利B I	点 在	一部 消滅	千葉県文化財保護協会『千葉県埋蔵文化財分布地図』II、昭和60年
縄之内・加賀利B・安行	地 点	一部 残存	『市川市史』第1巻、昭和46年
加賀利B II・称名寺・縄之内I・加賀利B・曾谷・安行 I・II	馬蹄 形	発掘・保存	木村英輔「千葉県市川市称名寺貝塚緊急発掘調査報告」昭和42年 『市川市史』第1巻、昭和46年
加賀利B II・縄之内 II・II・III a・III b・III c・大内BC・CI	馬蹄 形	発掘・保存	木村英輔「千葉県市川市内貝塚及び地點の調査」(考古学叢刊)3-1 『市川市史』第1巻、昭和46年
縄之内 II・加賀利B	地 点	消滅	『市川市史』第1巻、昭和46年
加賀利IV・称名寺・縄之内	点 在	発掘・消滅	一の谷遺跡調査会『一の谷西貝塚』昭和55年
丸筒・縄之内	地 点	発掘・消滅	市川考古博物館『市川市考古文書』I、昭和51年1月 『市川市史』第1巻、昭和46年
丸筒・縄之内	地 点	発掘・消滅	市川考古博物館『市川市考古文書』II、昭和51年1月 『市川市史』第1巻、昭和46年
丸筒・縄之内 I・II・III・浮島 I・II・III・御津	点在馬蹄形	発掘・一部残存	市川考古博物館『市川市考古文書』III、昭和51年1月 『市川市史』第1巻、昭和46年
縄之内 I	地 点	消滅	『市川市史』第1巻、昭和46年
丸筒・縄之内 II・III・浮島 II・御津・加賀利C	地 点	発掘 5~7m 深度	市川考古博物館『市川市考古文書』IV、昭和51年1月 『市川市史』第1巻、昭和46年
御山・丸筒・縄之内 II・浮島 II・五領ヶ谷	地 点	発掘 10m 深度	同上
丸筒	地 点	発掘 10m 深度	同上
前期・後期	地 点	一部 残存	『市川市史』第1巻、昭和46年
田代下層・丸筒・御台・縄之内・丸筒・縄之内・丸筒・縄之内・丸筒・縄之内・丸筒・縄之内・丸筒・縄之内・丸筒・縄之内・丸筒・縄之内・丸筒・縄之内	馬蹄 形	発掘・保存	同上 発掘正行『谷貝塚C、D、E地点発掘調査報告』昭和51~53年
丸筒・縄之内・加賀利B	点 在	縦 高 8 m	『市川市史』第1巻、昭和46年
加賀利E・縄之内・加賀利B・安行 I・II	点 在	一部 残存	同上
丸筒・加賀利E I・縄之内・加賀利B	点 在	一部 残存	同上
加賀利E・縄之内・加賀利B・安行 I・II	地 点	消滅	同上
花瓶・壺・丸筒・阿玉台・中時・膳板・加賀利 E I・II	点 在 馬蹄形	発掘・一部残存	同上 『市川市史』第1巻、昭和46年
花瓶・壺・丸筒・縄之内・五領ヶ谷・下小野・縄之内・安行 I・II	地 点	発掘 深度 5~7m 深度	『タロー』・藤原道彦『千葉県指古谷貝塚発掘調査予報』昭和28年 『市川市史』第1巻、昭和46年
御山・丸筒・縄之内	地 点	一部 残存	『市川市史』第1巻、昭和46年
茅山・丸筒・縄之内	地 点	一部 残存	『市川市史』第1巻、昭和46年
茅山・花瓶下層・御山・茅山・茅島 I・縄之内 II・縄之内 I	地 点	一部 残存	同上
茅山・花瓶下層・縄之内	地 点	消滅	同上
御山・縄之内	地 点	一部 残存	同上
忍兵・加賀利E III・称名寺	地 点	一部 消滅	千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』昭和58年
阿玉台・加賀利E I・II・称名寺・縄之内 I・II・加賀利B II	地 点	消滅	『市川市史』第1巻、昭和46年
茅山・熊坂・阿玉台・加賀利E I・II・III・称名寺・縄之内 I・II・加賀利B II	地 点	発掘・消滅	芦代義信『千葉県市川市境町山遺跡』(日本考古学年報)14 『市川市史』第1巻、昭和46年
称名寺	地 点	一部 残存	『市川市史』第1巻、昭和46年
黒兵・縄之内 II・浮島 I・II	地 点	発掘・消滅	市川考古博物館『麻谷遺跡』(市川市埋蔵文化財発掘調査報告)第2回 『市川市史』第1巻、昭和46年

市川市

番 号	地番 番号	地圖分布 地図番号	戸籍・員区块を含む 道路	所 在 地	貢 種 形 成 時 期				
					早 期	前 期	中 期	後 期	晚 期
60	31	22-30	下台	大野町580番地					
61	32	30-22-93	大野庄塙	大野町2丁目564番地1他					
62	33	30-82	一ノ矢 (大野新田)	大野町1丁目436番地1他					
63	34	30-78	木戸口	下戸塙町435番地1他					
64	35	30-79	山王台	大野町1丁目5番地1他					
65	36	30-81	奥原	菅谷2丁目378番地1他					
66	37	30-86	下	下戸塙町28番地1他					
67	38	30-104	鶴木A (鶴木)	柏井町4丁目357番地1他					
68	39	30-105	鶴木B (株木木)	柏井町4丁目352番地1他					
69	40	30-102	新川上A	柏井町4丁目432番地他			?		
70	41	30-106	新田前	柏井町4丁目479番地1他			?	?	
71	42	30-107	池屋	柏井町3丁目581番地1他			?	?	
72	43	30-108	杉ノ木舟	柏井町3丁目612番地他					
73	44	30-113	御塔前A	柏井町2丁目759番地他					
74	45	30-109	板の下	海免町95番地1他					
75	46	30-110	奉安寺	柏井町98番地他					
76	47	30-111	奉安南	奉免町263番地					
77	48	30-118	越山西	柏井町1丁目1242番地他					
78	49	30-119	越山	柏井町1丁目1212番地他					
79	50	30-120	内荒久	柏井町1丁目1119番地1他					
80	51	30-121	今島田 (堤行寺)	柏井町1丁目1696番地他					
81	52	30-122	今島田東	柏井町1丁目1725番地1他					
82	53	30-124	法伝	柏井町1丁目1871番地他					
83	54	30-125	二角	北方町4丁目1709番地1他					
84	55	30-127	七軒堀	北方町4丁目1732番地他			?		
85	56	30-126	更新山	北方町4丁目1719番地3他					
86	57	30-131	貝堀塙	若宮3丁目612番地1他					
87	58	30-128	花ヶ谷台	若宮3丁目612番地他	?	?	?	?	
88	59	30-129	英樹塙A	本北方3丁目622番地5他					

土器の型式	縦 横	備 考	主 文 献
丹波山、黒浜・序島群・加古利Ⅲ・湖之内Ⅰ・Ⅱ・ 加古利Ⅳ	地 点 免	測 量地図正行「下台貝塚A班区」(昭和53年度埋蔵文化財保護調査報告)第55年	「市川市史」第1巻、昭和64年
丹波・加古利Ⅱ	地 点 免	測 量 千葉県文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布図』(1) 昭和60年	
加古利Ⅱ・Ⅲ・湖之内Ⅰ・Ⅱ・加古利Ⅲ	点 在 消	滅 「市川市史」第1巻、昭和64年	
阿玉台・藤坂・加古利Ⅲ・称名寺・湖之内・御 所野Ⅲ	地 点 一 部 消 純	千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』昭和58年	
鬼岳・加古利Ⅱ・湖之内・称名寺・若狭利Ⅱ	地 点 一部 残 存	千葉県文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布図』(1) 昭和60年	
丹波・諸種Ⅳ	点 在 一 部 残 存	「市川市史」第1巻、昭和64年 「市川市志」第1卷、昭和64年 「市川市内出土文『千葉県市川市丹波貝塚』(日本考古学年報)15号(昭和62年)	
関山・周浜・序島Ⅰ・加古利Ⅲ・湖之内Ⅰ・Ⅱ	馬 蹄 形	一部残存、免報 「市川市史」第1巻、昭和64年 「市川市志」第1卷、昭和64年	
鬼岳・諸種Ⅲ・序島Ⅰ・湖之内	点 在 一 部 残 存	標高約 9 m・ 一部 残 純 「市川市史」第1巻、昭和64年	
鬼岳・阿玉台・加古利Ⅱ・Ⅲ・称名寺・湖之 内Ⅰ・Ⅱ	点 在 一部 消 純	同上	
前期・中期	地 点 一部 残 純	千葉県文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布図』(1) 昭和60年	
前期・中期・後期	点 在 一部 消 純	同上	
前期・中期・後期	地 点 一部 残 純	同上	
鶴・台山・手山下層・上層・花崗下層・高瀬Ⅴ・ 序島Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・奥津・下野・称名寺・湖之内Ⅰ	点 在 免損・一部消滅	測量正行「リノルム測量」(昭和54年度市川市有形博物館報告)、相模原市 相模原市立「市ノ木苔跡」第1・2・3次段丘(昭和64年度埋蔵文化財保護調査報告)第55年 昭和55年	
鬼岳・加古利Ⅲ・称名寺	点 在 免	測量正行「神迷山八幡跡」(昭和64年度埋蔵文化財保護調査報告)J 昭和55年	
諸種・湖之内	点 在 一部 残 純	千葉県文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布図』(1) 昭和60年	
鬼岳・藤坂・阿玉台・加古利Ⅱ・Ⅲ・湖之内・ 加古利Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	点 在 馬 蹄 形 免報・標高 5~ 9 m・一部残存	測量正行「赤堀鬼塚寺遺跡」(昭和66年度市川市埋蔵文化財保護調査報告)第55年 「赤堀鬼塚寺」第55年 測量正行「赤堀安達寺貝塚の発掘する問題」(市史)14、昭和66年	
湖之内	地 点 消	滅 「市川市史」第1巻、昭和64年	
加古利Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・湖之内Ⅰ	点 在 一部 消 純	千葉県文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布図』(1) 昭和60年	
藤坂・阿玉台・加古利Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・湖之内Ⅰ・ Ⅱ・加古利Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・安行	馬 蹄 形 免報・免存・ 一部 残 純	東洋大学人間文化系「測量記」に於ける「古河時代遺跡」(昭和7年) 「アーチー・横須賀『続山口碑』」昭和27年 「市川市史」第1卷、昭和64年	
加古利Ⅳ	点 在 一部 消 純	千葉県文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布図』(1) 昭和60年	
藤坂・阿玉台・中崎・加古利Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	点 在 免報・一部残存	江戸時代「市川町市川町行寺貝塚の土壌について」(市川市考古学 研究会)第1号 「市川市史」第1卷、昭和64年	
阿玉台・加古利Ⅳ	堆 点 在 一部 消 純	丁度文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布図』(1) 昭和60年	
湖山・周浜・序島Ⅰ・序島Ⅱ・奥津・下野・阿玉台・ 五瀬Ⅰ・Ⅱ・阿玉台・藤坂・中崎・加古利Ⅱ・ Ⅲ・Ⅳ	点 在 半 堆	同上	
茅山・黑浜	地 点 免報・一部消滅	測量正行「三井遺跡」(昭和54年度市川東部埋蔵文化財保護調査報告) 昭和55年 千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』昭和58年	
前衛・中期・後期	点 在 一部 消 純	千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』昭和58年	
鬼岳・藤坂Ⅲ・序島Ⅲ・奥津・下野・阿玉台・ 加古利Ⅲ・Ⅳ	点 在 免報・一部消滅	測量正行「唐松山貝塚八地点」(昭和53年度埋蔵文化財保護調査報告)第4年 「千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』」昭和58年	
加古利Ⅲ・称名寺・加古利Ⅳ・安行Ⅰ	地 点 消	滅 「市川市史」第1巻、昭和64年	
茅山・前衛・中期・後期	堆 点 消	滅 千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』昭和58年 千葉県文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布図』(1) 昭和60年	
湖・品台・茅山下層・上層・序島Ⅲ・下野・ 五瀬Ⅰ・Ⅱ	地 点 免 报・一部 消 純	芦沢文部「測量台達記」A地点(貝塚)」(市立市川博物館 免調査報告)1) 昭和60年	

鎌ヶ谷市

地番	市町村別 地図 No.	施設・貝ブロックを含む 道 路	新 在 地	月 級 形 成 時 期				
				早 期	前 期	中 期	後 期	晚 期
89	1	22-46 中沢	中沢日向山1479地				■■■■	
90	2	22-67 木戸塚	中沢木戸塚1396地			■■■■		
91	3	22-70 一本松	中沢一本松1305地			■	■■■■	
92	4	22-75 箕子向No.2	中沢箕子向1132地			■■■■		
93	5	22-98 外和戸No.3	中沢外和戸97地		■■■			
94	6	22-100 中台No.2	中沢中台95地		■■■			
95	7	22-101 中台No.3	中沢中台855地		■■■			
96	8	22-93 岩崎 (板崎No.1)	中沢岩崎41地		■■■			
97	9	22-85 岩崎No.3	中沢岩崎320地		■■■			
98	10	22-104 横瀬No.2	中沢横瀬621地		■■■			
99	11	22-23-115 中向	道野辺中向925地			■■■■		
100	12	22-119 南久保No.2	牛沢南久保751地		■■■			
101	13	22-112 下西山No.1	道野辺下西山39地		■■■			
102	14	30-124 各達川No.2	中沢各達川169地					

船橋市

地番	市町村別 地図 No.	施設・貝ブロックを含む 道 路	新 在 地	月 級 形 成 時 期				
				早 期	前 期	中 期	後 期	晚 期
103	1	30-102 鹿原鍾乳堂	鹿原町2丁目231番地			■■■■		
104	2	30-106 中法伝	上山田2丁目290番地			■■■■		
105	3	30-103 下野後	上山田1丁目131番地			■■■■		
106	4	30-104 法蓮寺山	鹿原町法蓮寺155番地			■■■■		
107	5	30-108 宮前	船町火前			■■■■		
108	6	30-109 談	前貝塚822番地			■■■■		
109	7	30-110 前	前貝塚868、872~875番地			■■■■		
110	8	30-111 摂出 (前貝塚塚込)	前貝塚6丁目600、606、671番地			■■■■		
111	9	30-112 古作 (貝塚)	古作町94番地			■■■■		

土器の型式	形	模	備考	主要文献
加曾利EⅢ・IV・縁之内I・II・加曾利B I・II・III・阿玉・安行I・II・III	馬蹄形	光面	一部残存	市上ほか・大和戸「牛島町出土縄文・古墳時代の遺跡」(昭和52年)、市上ほか・谷町史編さん委員会「牛島町出土縄文・古墳時代の遺跡」(昭和57年)
麻糬・厚底・阿玉台・加曾利E I・II・III・IV・加曾利B I・II・III・安行I	地	点	痕面	一部残存 轟ヶ谷市史編さん委員会「轟ヶ谷市史」上巻、昭和57年
茅山・阿玉台・加曾利E・縁之内I	地	点	一部残存	同上
阿玉台・加曾利B	地	点	平	轟ヶ谷市文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布地図』(II) 昭和60年
加曾利EⅢ・II	地	点	半	痕
加曾利E	地	点	-	部消滅
中崩	地	点	半	堆
勝坂・阿玉台・中崩・加曾利E I・II・III	地	点	一部残存	轟ヶ谷市史編さん委員会「轟ヶ谷市史」上巻、昭和57年
中崩	地	点	一部残存	千葉県埋蔵文化財分布地図『千葉県埋蔵文化財分布地図』(II) 昭和60年
加曾利E	地	点	半	痕
阿玉台・加曾利E・称名寺	地	点	半	堆
加曾利E	地	点	半	堆
加曾利E	地	点	半	痕
鷺文土器	地	点	半	痕

土器の型式	形	模	備考	主要文献
加曾利E・縁之内・加曾利B	点	在	半	堆
加曾利E・縁之内・加曾利B	点	在	-	部消滅 同上
茅山・黒面・縦縫・加曾利E I・II・III・IV・安行I・II	点	在	発掘・半	千葉県都市公社・日本建設建設公社「企画説」昭和48年 千葉県埋蔵文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年
黒点・横縫口・凸・厚底I・II・III・縦縫・十字縫合B	点	在	発掘・一部残存	同上
阿玉台・加曾利E・縁之内・加曾利B	点	在	-	部消滅 轟ヶ谷市教育委員会「轟ヶ谷市の遺跡」昭和52年 千葉県埋蔵文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年
阿玉台・加曾利E・縁之内	地	点	-	部消滅 同上
阿玉台・加曾利E・縁之内	点	在	-	部消滅 轟ヶ谷市教育委員会「轟ヶ谷市の遺跡」昭和52年
加曾利E・称名寺・縁之内・加曾利B	点	在	馬蹄形	発掘・痕 同上
加曾利E IV・称名寺I・縁之内I・II・加曾利B・安行I・II・III	馬蹄形	光面	- 部残存	轟ヶ谷市遺跡調査会「古作貝塚」昭和57年 轟ヶ谷市遺跡調査会「古作貝塚」昭和58年